

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570800237		
法人名	医療法人隆徳会		
事業所名	グループホーム菜花園	ユニット名	フルーツ
所在地	宮崎県西都市大字穂北字東原5253-105		
自己評価作成日	平成26年10月17日	評価結果市町村受理日	平成27年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&id=4570800237-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	フルーツ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、スタッフ一人ひとりの意識付けが出来るよう、玄関入り口や事務所に掲示・統一し、実践出来るよう取り組んでいる。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園や小学校の行事や慰問の参加事業所の行事にも近隣住民の参加を促したり、日頃も近隣の方々が訪れやすいように玄関周りを明るくし、話しかけられたら気持ちよい対応をするなどを心がけ、地域住民との交流が得られるようにしている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア会議に参加したり、研修や経験等で得た事などを利用者家族やその他見学者、実習生を通して、認知症の理解や支援の方法を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動や状況の報告を行い、そこで出た意見や毎月の活動状況などを月一回のグループホームカンファレンスでスタッフに伝え、日頃のサービス向上に取り入れている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者と日頃から連絡を取り合い、訪所や移動届け等で空きや入居その他の状況を伝えたり、地域の状況を取り入れ相談するなど、お互いに協力出来る関係が築けるようにしている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が定期的に勉強会に参加する機会を持ち、常に意識を持って取り組んでいる、精神的に落ち着かれない方も居られ、また、二階は踊り場を出ると階段のため、安全面を考慮し、出入り口には施錠している事もある。ただ、空気の入れ換えや散歩などの時は、スタッフが同伴している。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会への参加を促し、カンファレンス時に報告・スタッフ間で共有し、虐待防止の姿勢でサービスを行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	フルーツ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などのパンフレットを事業所の見える所に掲げ、職員間でも意識づけを行い、必要時などいつでも活用出来るようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際は、文書と口頭にてご家族等に十分な説明を行い、理解や納得を得、署名捺印を頂き一部を手渡ししている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面会やTEL連絡をする際に近況報告などをし、要望や意見などを伺うようにしている、玄関先にも意見箱を設置し、家族会を開催するなどして、それらで出た意見を運営に反映させている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや毎月のカンファレンスなど職員が意見や提案が出せるようにしている、年に一度の事業所の自己評価があり、個人の希望を取り入れ、運営やサービスに取り入れるようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員などの勤務状況や意見を把握する機会を設け、職場環境や条件の整備を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員に研修を受けるよう促し、実務に生かせるようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や社協、包括支援センターが主催する研修などに参加し、同業者との交流の機会が持てるようにしている、それらの活動を通じてサービス向上へ取り組んでいる。			

自己	外部	項 目	自己評価	フルーツ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、訪問や面談などで情報収集を行い、ご本人の要望などを聞き取り、安心出来る関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に訪問や面談等で家族の要望や困っていることを聞き取り、家族と良い関係が作れるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に、訪問や面談等で本人や家族が困っている事や必要としていることを見極め、スタッフ間や必要時には老健の専門職PTやOT、栄養士などの意見もサービスに取り入れるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が得た知識や経験を少しでも発揮できるような場をつくり、お互いに支えあう関係を作れるよう努力している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの協力が得られていることで、本人をより良い状態で支えることが出来ていることを、訪問時や通院などの近況報告時の連絡時に家族に伝えるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の便りを家族宛てに送ったり、面会や電話連絡時に近況を伝え、家族との面談の機会をもうけている、家族の協力も得て本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、関係維持に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	園内のレクリエーションや散歩、行事などを通じて利用者同士が交流出来る場面を作り、利用者同士が孤立することなく、お互いにより良い関係で居られるよう支援に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	フルーツ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要時は来訪や電話を受け、相談に乗るなど、家族の気持ちも考慮した支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス導入前に訪問や面談等で本人からの意向を聞き取る一方、職員間でその人の暮らし方について、担当者会議開催などで検討の場を設けている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には訪問や面談等で必ず調査を行い、これまでの状況を把握するようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の記録や職員間での申し送りから、一人ひとりのまだ出来ていることと援助が必要なことなどをスタッフ間からも情報を得て、現状を把握出来るようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの要望を聞き取り、職員間でも情報を持ち寄って、必要時は他の専門スタッフからも意見を伺い、本人の状態に即した「介護計画を作成するようにしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなどを個別に記録し、職員間で情報交換しながら、介護計画の実践や見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの希望や必要性に応じて、事業所の規定にとらわれずに対応出来るように取り組んでいる。			

自己	外部	項 目	自己評価	フルーツ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する小学校や保育園歌や踊りの慰問など、活用できる地域資源を検討するなど、少しでもなつかし思い出にひたり楽しんで頂ける場をもうけるようにしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医など、本人や家族の希望を踏まえた上で受診計画を立て、家族の協力も得ながら実施している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフに看護師が居り、日常の中での気付きや疑問点などを看護師に相談し、かかりつけ医やご家族と連携を図り、適切な医療が受けられるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報交換を行っている。入院後も病院側や家族と連絡を取り合って、状態を把握するようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には医療行為が必要となった場合は、医療機関の指示を得る方針でご家族医療機関と連携して支援にも伝えている。母体である病院が、終末期はグループホームでは行わない方針。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の際のマニュアルを作成している。隣接する老健で応急手当や緊急時の対応の仕方を学び、実践力を身につけ、夜間は管理者看護師に報告し対応出来るようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災想定訓練を行い、定期的な勉強会を行う他、隣接する保健施設で実施される避難訓練にも参加するなどして、避難方法を身につけるようにしている。			

自己 外部	項目	自己評価	フルーツ	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格や誇りを尊重した声かけや対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の場面の中で、本人の思いや希望が表せられるように声かけやケアを行い、本人の僅かな言葉の中に思いが込められていないか、耳を傾け見守り、観察出来るように意識づけを行い、スタッフ間で情報を共有し、支援に生かすようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや体調などに合わせて、希望があれば沿えるよう、無理強いしない支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自宅で着られていた物などご家族が季節に応じて用意された物を、スタッフ間でその日の気候なども考慮したうえで、お一人おひとりの個性も重視して支援している。散髪などもご家族の要望や了解を得て、定期的に依頼し実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会での手作りのケーキやお寿司などのいつもと違った料理などを準備し、写真などを撮りご家族に配布したり、色紙にして見て頂いたり、日頃も手の消毒やコップだけでも下膳して頂いたり、準備や片付けの僅かな部分でも職員と利用者が協力して行う場面が持てるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の検温や血圧測定、月一の体重測定など体調管理に十分な注意を払い、主治医との相談もしながら、一人ひとりの状態に応じた形態を検討し食事や水分の確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを毎食後実践している。		

自己	外部	項 目	自己評価	フルーツ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態や排泄パターンを把握し、立位が出来る方にはなるべくトイレでの排泄の支援を行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、食事やおやつの内容に工夫したり、散歩や体操を取り入れて、便秘を防ぐように取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否あれば無理強いせず、他の日や時間に実施するようにしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの習慣や体調に応じて気持ちよく休息したり、安心して眠れるよう支援している。日中でも傾眠されているようであれば横になっていただいている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後は個別の服薬説明書添付し、職員全員で共有している、通院時の内容や内服薬変更時および指示があれば記録し、症状の変化にも対応出来るようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな内容のテレビや歌や塗り絵、ゴミ箱作り、洗濯物をたたむなど、生活歴や希望を取り入れ無理強いせず、ご自分からされるようにするなど、スタッフ間でその日の体調などに応じ支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩を行っている。また、年1回はバスでドライブに出かけ、外食の機会が持てるようにしている。車いす利用での通院の方も居られ、介護タクシーなどで通院後のドライブなども検討している。			

自己	外部	項 目	自己評価	フルーツ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預かり金を預かりスタッフが管理している。本人の必要時や希望時には、ご家族の了解を得た上で使えるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、自ら電話出来るようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはテーブルを置き各自座って頂いている。畳間はあるが、現利用者の方はご自分であがれず、ご家族の面会時に利用して頂く事もある。季節にあった飾り付けを行うなど、工夫はしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分で日当たり良い場所に行き、椅子に座り日にあたるなど、また、ガラス窓も大きく外の景色がはっきり見え、ゆったり過ごせる空間になっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人や家族の好みが生かせ、安心して過ごせる居心地良い空間になるよう工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各出入り口が車いすだと狭い箇所もあるが、建物内部は随所にてすりを設置。段差も無く、安全面に配慮され、フロア内は自由に行き来出来るようになっている。			